

多重債務の整理など
気軽に相談してください

- ◇日時・定員：①4月10日④②5日⑥10時～15時 ※一人40分、一日6人まで
- ◇会場：①市役所本庁②千厩支所（要予約。前日17時まで）
- ◇①市消費生活センター一関相談室（本庁生活環境課内） ☎②8342 ②同千厩相談室（千厩支所内） ☎③3957

悩みのある女性は
女性センターで相談を

- ◇日時：4月25日④10時～16時
- ◇場所：女性センター相談室
- ◇申し込み：要予約（匿名可）
- ◇女性センター ☎②145

お知らせ

「山目字沢内」の国有地を
先着順に売却

- 山目字沢内の国有地を先着順で売却します。
- ◇物件：山目字沢内65-3/宅地825・33㎡/用途指定なし
- ◇最低売却価格：476万円
- ◇申し込み：普通財産売却申請書、誓約書、住民票抄本（法人は商業登記簿謄本と役員一覧）を持参して盛岡財務事務所まで（郵送不可）

◇費用：土地代金、登録免許税、印紙税は買い主負担

◇受付期間：4月9日⑤～6月8日⑥
 ①東北財務局盛岡財務事務所管財課 ☎019-625-3354

春の全国交通安全運動
春の地域安全運動

事故や犯罪のないまちを目指し、4月6日⑤～15日⑥は「春の全国交通安全運動」が全国展開されます。同時期に「春の地域安全運動」も実施されます。
 本庁生活環境課 ☎②8342

し尿と生活雑排水を
同時に処理する浄化槽を

市は、浄化槽の普及促進を行っています。浄化槽は、個人設置型と市設置型の二種類、採択は申し込み順です。

◇受け付け：4月2日⑤～
 ◇事業内容：【個人設置型】一関・花泉・千厩・室根・藤沢

地域の下水道認可区域、農業集落排水区域以外で浄化槽を設置する個人に補助金を交付します（24年度から補助金額を上乘せ）
 【市設置型】大東・東山・川崎地域の下水道、農業集落排水区域以外で申請のあった個人宅に浄化槽を設置・管理します（受益者分担金と使用料を納付）
 本庁下水道課管理係または各

支所水道課下水道係

仮設住宅周辺に
LED防犯灯を設置

市は県企業局のクリーンエネルギー導入支援事業の補助を受け、千厩地域と室根地域の仮設住宅周辺にLED防犯灯を10灯設置しました。
 本庁生活環境課 ☎②8342

太陽光発電システム
導入補助金の活用を

募集期間：4月2日⑤～25年3月29日⑥
 ◇補助金額：太陽電池の出力1キロワット2万円
 ◇募集：1000件（400キロワット）

対象、システム、申請窓口など詳しくは、問い合わせください。
 本庁生活環境課 ☎②8342 または各支所市民課

山目字館地区の一部が
造成宅地防災区域に指定

震災で大規模な滑動崩落被害を受けた山目字館地区の一部が、3月13日付で造成宅地防災区域に指定されました。関係図書は、県庁建築住宅課、一関土木センターおよび本庁都市計画課で閲覧できます。

公共下水道工事が完了しました
早めの接続をお願いします

23年度に整備が完了した区域は下記のとおりです。工事を依頼する場合は市指定工事店で。
 ◇各地域の整備済み区域…【一関】字台町、山目字中野、山目字大槻、山目字才天、山目字立沢、山目町三丁目、中里字沢田、三関字桜町、三関字外谷起、萩荘字脇田郷、萩荘字本町、萩荘字箱清水の各一部【花泉】花泉字郷ノ里、金沢字北町、金沢字北金里、金沢字水門の各一部【大東】大原字台の一部【東山】長坂字南磐井里、長坂字北磐井の各一部【千厩】千厩字北方、千厩字町浦、千厩字町、千厩字前田の各一部
 本庁下水道課または各支所水道課下水道係

放射性物質の規制値が
4月1日から引き下げに

食品中の放射性物質の規制値が4月1日から引き下げられます。食品の安全と安心をより一層確保するために行われるもので、食品から許容することのできる放射線量を、現在の年間5ミリシーベルトから年間1ミリシーベルトに引き下げるものです。これまでの暫定規制値に適合する食品も安全が確保されていると考えられることから、施行日までに製造・加工された食品には経過措置が、準備期間が必要な食品とその食品を原料とする製造・加工食品には、一定の経過措置期間が設けられます。

被災した建物を復旧する際
建築手数料などを減免

東日本大震災で被災した建物を復旧する場合、建築申請手数料など減免を受けることができます。手続きなど詳しくは、問い合わせください。
 ◇対象：①災害前と同じ用途で建築するもの②免除できる範囲は、被災前の床面積の1.5倍以内
 ◇期限：災害にあった日から3年以内に確認申請などするもの
 ◇内容：建築確認申請手数料と完了検査申請手数料
 本庁建築住宅課建築指導係



京佛師
石川昇明さん
一刀に、一心に、
形と心を融合する手業



PROFILE
石川昇明(完二)

1959年大東町洪民生まれ。父の影響で仏師を志し、高校卒業後、京都で修業。99年帰郷、工房を構える。被災した陸前高田市の寺院へ仏像を寄贈する活動を展開。妻、子2人、義母の5人家族。大東町洪民在住、52歳

「仏師」。仏像などを彫る職人の名称だ。その歴史は飛鳥時代にさかのぼる。大東町洪民の石川昇明（本名完二）さん（52）もその一人だ。大東高卒業後、1977年から京都で修業。90年には京都大仏師松本明慶師に弟子入り。腕を磨いた。99年に帰郷し工房を構えた。

この道を選んだのは、仏師の父佐久間白雲（本名茂）さんの影響。「父の背中を見て育つた」と振り返る。近くに住む兄の佐久間溪雲（本名純二）さんと共に東北地方の数少ない仏師。各地の寺院などに仏像を納めている。

「仏像は大きさにもよるが、制作は一体につき半年から2年ほどかかる。重要文化財の仏像修復なども行っている」と、一心に彫刻刀を握る。

昨年3月11日、石川さんは東松島市で地震に遭遇。

途中、川をさかのぼる津波も目の当たりにした。「仏様が守ってくれた」と振り返る。

震災後は、ボランティアで沿岸部を訪れた。被災した陸前高田市の寺院に仏像を納めることが「仏師である自分の使命」と高田松原の黒松を使い、19体の制作を始めた。

制作には60本以上ののみや彫刻刀を使う。直径約5センチの顔の部分は仏像の命。小刻みに刃をあてて。仏像の表情が徐々に温和になっていく。

ベタな質問を試してみた。「この仕事は好きですか」。答えは「喜んでもらえる仕事。大好きさ」。「19体の制作に当たり、全国から多くの賛同をいただいた。心から感謝している。震災から一年を前に納めることができる」と充実感と達成感にあふれていた。



1 静かな時間が流れる工房。ここでは、材料を刻む音だけが響く／2 繊細な作業をリズミカルにこなす／3 角材が徐々に仏像へ／4 手入れの行き届いた彫刻刀は職人としての誇り／5 精巧に仕上げた2号ほどの仏像の手／6 地藏菩薩8寸仏（約26センチ）、台座を含む総高40センチの仏像。この後、漆、金箔を施す